

01 初めての第一の黙想

単立 尾上聖愛教会 青少年担当主事 布目 麻矢

主事：8年 説教塾：1年 セミナー初参加

40分間の第一の黙想のために、与えられた部屋に入りマタイ9章からの5節のことばに向き合うと涙があふれて止まらなかった。

後になって考えてみると、自分の働き場から物理的に離れ、あの礼拝やこの集会のための説教準備のためでもない、けれども説教者としてテキストと向き合うという課題を受けて、知らないうちに私を支えていた何か前提のようなものを良い意味で失ったのかもしれない。自分が語るべき神の真理の範囲はここからここまでというような自分や教会にとって安全な領域を設定していたように思う。それが一部か全部か分からないけれど除かれるとこれほどまでに動揺してしまうものなのか。それだけ私は神のことばの前に壁を立て上げていたのかと思わされた。

主のファリサイ人への厳しいことばの中に神の愛の招きがあると感じるけれども、きっぱりとした神の愛の招きを拒むファリサイ派の頑なさが自らのうちに、また教会のうちにあることも感じている。人のうちには神の恵みを無にしてしまうかと思われるほどの自分勝手さが強烈に存在している。けれども主は憐れむために来られて、そこから私たちを救い出してください、主の憐れみを生きるようにとおっしゃる。主の憐れみと愛の大きさと人の頑なさの間で立ち尽くして動けなくなって、泣き出してしまったようなそんな感じだった。

情けないと思う一方で、今はあれで良かったと思う。テキストと向き合うとはこういうことだと体感(霊感?)した。

この体験を生涯忘れず、ここを原点にしたい。人の手垢のついていない神のことばの前に静かに出て行き、説教者である一人の人として神の語りかけに全存在で聴くこと。ここから説教の準備が始まることを。